

令和3年度（2021年度）

事業報告書

令和3年（2021年）4月1日から
令和4年（2022年）3月31日まで

一般財団法人 MRAハウス

目 次

<新事務所への移転>	1
<事業の概況>	1
<公益目的事業>	1
【Ⅰ】『国際相互理解の増進』を図る事業（継1）	
【自主事業】	1
【助成事業】	
1) 学生団体	2
2) 一般団体	5
3) 特別枠	6
【寄付事業】	7
【会費】	8
【Ⅱ】『国際リーダー・人材育成』を図る事業（継2）	
【助成事業】	8
1) 一般団体	8
2) 特別枠	8
【Ⅲ】『民間公益活動の振興』を図る事業（継3）	
【助成事業】	9
1) 特別枠	9
【寄付事業】	10
【会費】	10
<その他の事業>	
【自主事業】	10

令和3年度（2021年度）事業報告

<新事務所への移転>

昭和27年に設置されたMRAハウス、昭和44年に新築されて以来65年余り、三代目となる新MRAハウスは元の南麻布の地に建設されたレフィール南麻布の1Fが事務所となっている。新事務所は2020年3月末に完成し、6月に仮事務所の六本木から南麻布に戻った。2020年度及び2021年度はコロナ禍により新事務所のお披露目は延期された。2022年度には関係者を招待してお披露目会を開催予定。

<事業の概況>

2021年度の助成事業は、長引く新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、30の助成事業のうち6つの助成事業が中止または助成辞退を余儀なくされた。また14の事業ではオンライン開催など、事業内容を変更しての開催となった。それを受けて当財団は柔軟に変更申請の承認を行った。2020年度もそうであったように、オンラインでの会議は、対面で会うことができないデメリットがある一方で、遠隔地にいる人が移動時間や経費などにコストをかけずに気軽に参加できるというメリットもあり、今までは参加できなかったゲストやOBも参加可能となった。また、ホットな話題の第一人者をスピーカーに招いた世界規模のウェビナーも活発化した。しかしながら、国際相互理解においては、特に若い世代において、対面でのふれあいを通じた本音の交流が重要でもあるため、今後はwith コロナ下でのハイブリッドな開催形態が模索されている。新型コロナウイルスの一日も早い収束を祈るばかりである。

自主事業に関しては、従来から行っているOCA国際交流事業とともに、新しく若手リーダー育成研修事業を行うべくその準備中である。前者については、コロナウイルス感染拡大によってオフラインの活動を行うことができなかったが、オンラインでの事業に切り替え、また、中期計画を策定した。

<公益目的事業>

「国際相互理解の増進」、「国際リーダー・人材育成」、「民間公益活動の振興」を図る事業において、下記の通り【自主事業】、【助成事業】、【寄付事業】を行い、【会費】による支援を行った。

【I】「国際相互理解の増進」を図る事業（継1）

【自主事業】

●国際交流プログラムの推進（OCA国際交流事業）

1) 新型コロナウイルス流行による事業計画の改定

新型コロナウイルスが引き続き流行をしているため、収束した場合の事業計画と収束しない場合の事業計画を策定した。なお、会議はほとんどすべてオンラインで対応している。

2) プロジェクトの中止

- ①タイ学生訪日研修
- ②キックオフキャンプ
- ③メーコックボランティア

- ④北部タイツアー
- ⑤アジアンビートプロジェクト

3) 実施した主な事業

海外渡航や集団行動が規制される中、オンラインで以下のようなプログラムを企画・実施した。

①オンライン4大学セミナー

2022年1月27日、チュラロンコン、MFU、中央、埼玉の4大学の学生でオンラインでセミナーを開催。参加学生35名。ビデオを配信して事前勉強を行い、当日は日タイの学生が複数の部屋に分かれて大学教授の講義を受けたあとテーマにつき討議した。

②オンライン学生交流プログラム

チュラロンコン、MFU、中央、埼玉の4大学から選出された日タイの学生代表がプログラムの企画をたて、6月17日、7月5日、8月10日の3日にわたり実施された。延べ127人の学生が参加した（内訳は、それぞれ、50名、29名、31名、17名。）

③オンラインアジアンビート

第2回 2021年6月5日～7月11日、第3回 同年10月30日～11月14日。

日本内外のアジアの参加者が集まり歌やダンスを通じてアジアにメッセージを発信する動画をオンラインで制作する事業である。これを通じて友情を育み、将来のオフラインのアジアンビートプロジェクトで再会し、韓国、台湾を訪問することを予定している。参加者は、第2回はスタッフ10名（日本、韓国、インドネシア）、キャスト25名（左記のほか、7か国）、第3回はスタッフ7名（日本、インドネシア、フィリピン）、キャスト23名（上左記のほか3か国）であった。

④メーコック、バーンロムサイへの支援等

メーコックオンラインビジットを2回、メーコックのオンラインタイ料理教室を2回行った。寄付については後記【寄付事業】(P7)のとおりである。

⑤オンラインスクールプロジェクトへの協力

後記【寄付事業】(P7)のスクールプロジェクトに協力を行った。

4) 運営体制の強化等

2022年度から2024年度までの3か年のための中期事業計画が作成された。内容は、日タイ学生プログラム、アジアンビートを中心としたプログラムについてと理念、世代交代、プロジェクト参加者の確保等である。また、日タイ交流ホームページを作成した。

【助成事業】

1) 学生団体

①日中学生会議

第40回日中学生会議

【感染症の影響で、本会議は中国開催を中止し、オンライン開催】

テーマ：『日中な多様な繋がりを通して、新時代の架け橋になる』

参加者（委員含む）：日本側29人、中国側：20人

◆5月21日～5月22日 顔合わせ合宿実施(オンライン)

◆7月3日～7月4日 中間合宿実施(オンライン)

◆8月3日～8月19日 本会議実施(オンライン)

顔合わせ合宿後、中間合宿までの約一ヵ月間、日本を知るというテーマのもと、

「勉強会」を実施した。今年は、本会議を対面で実施できるかわからない状況で、オフラインで会える機会を確保したいという思いから、勉強会のグループ分けを居住地域に従って行った。加えてガイドラインを作成し、条件を満たした勉強会エリア・メン

バーのみフィールドワークを実施した。オンラインだからこそ接触出来た OBOG・ゲストスピーカーの方々もいらして、オンラインを活用した充実した会議にすることが出来た。

②日本ロシア学生会議

第 32 回日本ロシア学生会議➡**辞退**

③日韓学生フォーラム

第 37 回日韓学生フォーラム

テーマ『Light it up』

参加者：日本側 16 人、韓国側 15 人

2021 年 1 月～2021 年 7 月 月 2 回の勉強会（オンライン開催）

2021 年 1 月～2021 年 7 月 講演会（オンライン開催） 有識者の方をお呼びした講演会の実施

2021 年 3 月 合宿（オンライン開催）

2021 年 8 月 12 日～2021 年 8 月 16 日 メインフォーラム（オンライン開催）日韓合わせて 31 人参加

メインフォーラムでは Symposium, Discussion Table, OGOB session, 文化交流などのコンテンツを実施し、学術面だけでなく、文化面における交流も行った。

2021 年 8 月～2021 年 10 月 報告書作成・来年度活動概要と実行委員の決定

④日中青年会議委員会

2021 年度日中青年会議

【日本国内でのオフライン会議を中止し、オンライン会議に変更】

スローガン：“It isn't enough to talk about peace. One must believe in it. And it isn't enough to believe in it. One must work at it.”

参加者：日本、中国本土、香港及び台湾の 4 地域から集まった 60 人の中高生
事業スケジュール：

◆7 月 11 日 オリエンテーション

◆7 月 23 日～7 月 28 日 本会議

◆12 月中旬 事業報告会

日本チームオーガナイザーは運営の円滑性を保つため、Airbnb などのサービスを用いてオフラインで集合した。本会議はオーガナイザーによるセッションやワークショップを通して他文化や多様な価値観をしり、他人と一生涯の有効関係を築くことで次世代の平和を作る人材を育成している。

⑤国際学生会議

第 67 回国際学生会議➡**辞退**

⑥IDFC（日本ミャンマー学生会議）

IDFC for Myanmar and Japan Youth Leaders 2022

【ミャンマーでの本会議の開催を中止し、オンラインで開催】

◆9 月 24.25 日 12 月 27.28 日 実行委員合宿実施

◆10 月 10 日 ミャンマーの今～Be the change, See the change～実施

◆1 月 29 日 記者が今伝えたいミャンマー 実施

◆3 月 19.20.21 日 本会議実施

IDFC2022 では、計 3 回のオンラインイベントを開催したほか、2 度の実行委員合宿を行いイベントの内容を詰めていった。10 月のイベントでは 学生にミャンマーの今を知る機会を提供することを目的に教授や YouTuber の方々にご講演頂いた。1 月のイベントでは、メディアで報道されないミャンマーの現実を知る機会を提供し、学生がミャンマーに興味を持つきっかけとするために記者の方をお呼びし、体験談を聞いた。最後の本会議では文化理解を深めクーデターや貧困などの社会課題について深く考えられる機会を提供した。

⑦京論壇

京論壇 2021

【セッションの北京・東京それぞれへの渡航を中止し、オンライン開催へ変更】

参加者：日本側 19 人、中国側 19 人

◆2021年9月1日～9月7日 オンライン実施

◆2022年2月12日～2月18日 オンライン実施

1年間を通じて、「国家政策と正義」「現代社会における消費文化」「権力と『コトバ』」という3つの分科会に分かれ、東京大学と北京大学の学生がそれぞれ5人ずつ、親睦を深めるとともに白熱した議論を展開した。9月のセッションでは、各分科会が自分たちの考えやそれぞれの国における現状を共有し、2月のセッションでは、さらに議論を深掘りながら相互理解と信頼関係の構築に努めた。

⑧日本・イスラエル・パレスチナ学生会議

第19回日本・イスラエル・パレスチナ合同学生会議➡中止

⑨国際教育振興会

第73回日米学生会議

【米国学生の来日を中止。日米それぞれの代表団が対面で集い両者をオンラインで繋ぐ形式に変更】

テーマ：新時代の胎動～絆と調和で築く未来～

参加者：日本側 38 名、米国側 28 名

◆5月～7月 春合宿、防衛大学校研修、各種自主勉強会をオンラインにて実施

◆8月2日～8月19日 本会議実施（日本側：8月5日～12日に青森県を訪問、米国側：本会議開催全期間にわたりハワイを訪問）

◆12月11日 オンラインの報告会にて第73回会議報告・第74回会議計画発表。

8月の本会議ではテーマ別の7つの分科会に基づき議論を深めたほか、京都・青森・福島・東京・ハワイの5つの地域に関するプログラムを行った。

日米の学生はオンラインでのみの交流となったが、最終日の分科会別の成果発表に向けて準備に勤しみつつ、プログラムを通じて交流を深めることができた。

⑩日中交流学生団体 京英会

2021年度 勉強会

○勉強会(全4回、オンライン)

目的：両国学生が互いについて学び、相互理解を深められるようにすること

・第1回勉強会(5月2日) テーマ：「日中のエンタメ比較」 日本人10名、中国人8名

・第2回勉強会(5月30日) テーマ：「出身地や故郷の紹介」 日本人6名、中国人2名

・第3回勉強会(8月17日) テーマ：「オリンピック」 日本人5名、中国人1名

・第4回勉強会(11月7日) テーマ：「日中の流行」 日本人5名、中国人4名

○日中交流会(対面勉強会)(全4回、国立オリンピック記念青少年センター)

目的：中国人と日本人との交流の輪を広げること及び言語学習

・第一日(3月17日) 中国語を用いて物事を説明する練習を実施 日本人4名

・第二日(3月19日) 中国語での広告ポスターの作成 日本人3名、中国人2名

・第三日(3月21日) ゆかりの地の紹介ポスター作成 日本人6名、中国人4名

・第四日(3月22日) 日本語の歌詞の中国語訳 日本人3名、中国人2名

⑪国際和解映画祭実行委員会

第1回国際和解映画祭

【国境を越え集まった419作の「和解」への願い コロナ禍の中で初開催】

テーマ：『和解文化の創成—私たちはまだ変わる—』

◆エントリー総数：419件 うち日本語312、外国語(中・韓・英)107

◆来場者数：計177人 ◆出演学生出身国：7の国と地域

◆7月10-11日 早稲田大学大隈講堂にてオフライン開催

早稲田大学国際和解学研究所との共催。5国籍・10大学の多様なメンバーにより初開催

された。「和解」をテーマに脚本・映画企画・映像のコンペ3つを映画祭に先立って実施。映画祭ではノミネート作品を上映したほか、トークショーやスタッフ自らが制作した映像作品等により、諸国民の「和解」の難しさや、明るい未来に向けての糸口をさぐった。緊急事態宣言が施行される前日という中、非常に厳正な感染対策を行いオフライン開催。Zoomで韓国よりコンテストに参加した学生とつないだり、7か国の学生からのビデオメッセージが上映されたりと、国を超えた若者の連帯を示すことができた。

2) 一般団体

①特非) エデュケーション・ガーディアンシップ・グループ

第26回海外高校生による日本語スピーチコンテストならびに

日本青少年と海外青少年による異文化理解及び交流プログラム➡**辞退**

②特非) シニアボランティア経験を活かす会

●外国人による小・中・高生の国際理解・国際交流の促進

英語による外国人の出前授業

テーマ：『お互いにそれぞれの国を理解しよう』

参加者：日本側6人（シニアボランティア経験を活かす会会員：6人、

外国人8人(ウガンダ：2人、ガーナ：1人、モロッコ：1人、カンボジア：1人
インドネシア：1人、セントルシア：1人、パラグアイ：1人)

◆3月17日 鎌倉市立御成中学校で実施

2年生4クラスを8グループに分け、5時限目と6時限目にそれぞれ外国人による自国の紹介と生徒3グループによる日本の文化の英語での紹介をやり、お互いの国や文化を理解するとともに英語でのコミュニケーションになれる。5時限目と6時限目は外国人が入れ替わるため、生徒は2ヶ国の外国人の話が聞けるし外国人も6グループの生徒の話が聞ける。

●外国につながる小学生の日本語支援教室

事業内容：外国につながる小学生の日本語支援教室運営

実施場所：みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ

参加者：外国につながる小学生：15人

講師：シニアボランティア経験を活かす会会員10人（非常勤講師を含む）

実施期間：2021年4月5日より2022年3月23日

指導日・回数：毎月第1・2・4月曜日と水曜日に60分間。計49回実施。

指導内容：低学年の児童には生活日本語・ひらがな・カタカナ・漢字等の習得を、高学年の児童には文章読解力・小学生漢字（約1,000字）の習得を目標としている。また、学習だけでなく折り紙やカルタ等の日本の遊びの時間もとっているため、児童にとって日本文化に触れ、日本語を使う楽しい場所となっている。

③G7/G20 Youth Japan

2021年度 Y7/Y20 Summit 日本代表団派遣

【Y7 Summit】

テーマ：経済、デジタルとテクノロジー、気候変動と環境、健康・医療

参加者：G7メンバー国の代表団33名（日本からは4人）

◆3月～4月 日本の若者への意識調査、政策議論のオンラインイベントを実施

◆5月14日～5月15日 Y7 Summit（オンライン開催）

【Y20 Summit】

テーマ：イノベーション・デジタルと仕事の未来、インクルージョンと機会均等、サステナビリティ・気候・エネルギー

参加者：G20メンバー国、招待国・国際機関の代表団より3人ずつ（日本からは3人）

◆5月 日本の若者と政策議論のオンラインイベントを実施

◆7月19日～7月23日 Y20 Summit（オンライン開催）

④(特非) 世界青年友の会

フィリピン地方都市で実施する小中学生対象実験出前授業

【フィリピンイロイロ島の小学生対象 Zoom で科学を説明する】

テーマ：『日常生活をパラパラ漫画を使って検証する』

参加者：日本側 10 人、フィリピン人受講者：250 人、フィリピン現地指導者：10 人

◆2月19日16:00～ オープニング実施（両国 Zoom で実施）参加者 251 人

◆2月26日～4月1日 毎土曜日ごと計6回リモート授業実施

◆4月23日16:00～ Closing Ceremony 実施予定

授業内容は、学生たちが作成した「TANARAU 2.0 Workbook」をテキストとして使用。

20 種類の Activity から学校や生徒のレベルに合わせて各回 5 テーマ程度を採用し、

取り扱い説明用に作成した該当テキストページを切り抜き、Zoom の説明に合わせて

パラパラ漫画のように使用させ、講師の解説の補助として活用する。

Zoom によるリモートの欠点を、テキストに組み込んだパラパラ画像を使用すること

により、誰にでもわかりやすく参加しやすい授業形態を整えてみた。

3) 特別枠

①(公財) 日本国際交流センター

●日米青年政治指導者交流プログラム：『第 30 回日本代表団訪米プログラム』

テーマ：『諸課題から考える新たな日米協力の形』

参加者：地方議員、政党職員、NPO 主催者、独立行政法人職員、
地方ジャーナリストなど正規参加者 8 名およびオブザーバー 1 名

◆2022 年 3 月 2 日-3 月 25 日。水・金曜日に実施。全 8 回講義。

◆98%の出席率。事前資料配布によりディスカッションへの参加を
促し、毎回ほぼ全員が質問やコメントをする事ができた。

外交・安全保障、米国の内政や社会課題、メディアの役割、

人口動態変化により選挙区割りの問題、少子高齢化対策、

地方創生など日米の共通課題について米国の視点や取り組みを学び、

日本との比較の観点も入れつつ、新たな日米協力に向けて参加者それぞれの

立場で何ができるのか、考察を行う機会となった。

●ダイバーシティ社会推進：『日米女性議員交流・訪米プログラム』

野田聖子内閣府特命担当大臣及びガバナー・テグット米国連邦民主党下院議員を共同座長

に、日米の政治家をはじめ各界で活躍する女性リーダーによる政策対話を実施。両国スピー

カーによる問題提起後、政策実現に必要な政治の力に訴えるべく、具体的提案を行った。

第 1 回会合：1 月 13 日(木) 議題 「ジェンダーと政治の役割」

日本側参加者 21 名 ・ 米国側出席者 21 名

第 2 回会合：2 月 16 日(水) 議題 「政策実現に向けて－女性の政治参加促進のための

システム」 日本側参加者 22 名 ・ 米国側出席者 21 名

議論の参考資料として、ラトガーズ大学アメリカ女性と政治センター

及び日本国際交流センターによる女性の政治参加を推進するための活

動を行う諸団体の活動についての報告書を作成。

第 3 回会合：3 月 23 日(水) 議題 「デジタル社会における女性の活躍」

日本側参加者 23 名 ・ 米国側出席者 23 名

②(公財) 国際 IC 日本協会

第 42 回 IC 国際会議

1. 開催日程：2021 年 10 月 23 日（土）～24 日（日）の 2 日間

2. 開催形式：オンライン（ZOOM）

3. 参加人数：1 日目＝115 名、2 日目＝125 名、（うち海外参加者：15 カ国 31 名）

4. テーマ：「意識の改革～みんなで築こう信頼の架け橋を～」

本フォーラムは、①IC/MRA 精神に基づく国際親善・相互理解の促進、②参加者個人が自らの内面を見つめ内省する機会の提供、③青少年の国際感覚の涵養と多様性への理解深耕、等を目的として、当協会が 1977 年以来開催してきたイベントである。内容としては、①内外の有識者による基調講演、②グループミーティング、③当協会の事業である「学校訪問プログラム」及び「東北アジア青少年フォーラム」の OB・OG が参加するセッション等のプログラムを実施。国籍・人種・宗教・性別を問わない活発な交流が行われた。

③特非) Sing Out Asia

●クロスカルチャー・トレーニング・プログラム

【CCT ミニキャンプ】

テーマ：『留学生との親交を深める』

参加者：日本 8 名、セルビア・オマーン・マレーシア・中国・インドネシア各 1 名ずつ
2021 年 12 月 11 日～12 日、静岡県熱海市・伊東市にて、CCT を行い、美術館などの見学、ミカン狩り、海岸での散歩などを楽しんだ。夜は網代の古民家に宿泊し交流を深めた。また、2022 年 3 月 27 日には、リュニオン（再会）イベントとして高尾山観光を楽しんだ。

【ファシリテーターキャンプに向けた準備】

テーマ：「2022 年夏実施予定のファシリテーターキャンプのための調査と意見交換」

参加者：日本 1 名、インドネシア 3 名（4 名は日本・インドネシアのリーダー）

2022 年 3 月 16 日～23 日、インドネシアのコモド島・パダル島でキャンプの開催地を視察し、滞在施設、移動手段、可能な活動について詳細に調査した。キャンプでは自然の中でファシリテーター同士の交流を深め、リーダーシップ能力を高める活動を行うことになった。

●アカペラ合宿&コンサート in 台南➡中止

④原美術館

原美術館 ARC イベントシリーズ：3 つのバスツアー

◇第一回「小さな子供と家族のためのバスツアー」

参加者：子供 5 名、保護者 5 名（ワークショップ現地参加者：子供 5 名、保護者 10 名）

開催日：2021 年 10 月 16 日（土） 新宿駅⇄原美術館 ARC 往復

◇第二回「美術を学ぶ学生のためのバスツアー」

参加者：26 名（対象大学：学習院、東京藝術大学、武蔵野美術大学、実践女子）

開催日：2021 年 11 月 21 日（日） 新宿駅⇄原美術館 ARC 往復

◇第三回「アジアからの留学生のためのバスツアー」 *中止

●普段は美術館に足を運ぶ機会が少ない層にターゲットに絞ったバスツアーを実施した。第一回のツアーでは現地で子供のためのワークショップを企画し、二回目は若手アーティストの鈴木康広氏が美大生に向けたトークを行った。学芸員によるガイドでは学生からアートの仕事に関する質問が多々寄せられた。コロナの感染状況が安定しない中、バスツアー参加者の定員数を減らすなどの安全策をとって催行に至った。

【寄付事業】

- ①コモンビート スクール・プロジェクト（OCA 国際交流事業関係）
- ③バーンロムサイ タイ・孤児院への寄付（OCA 国際交流事業関係）
- ②メイコックファーム タイ・孤児院への寄付（OCA 国際交流事業関係）
- ④国際 IC 日本協会

【会費】

- ①国際協力 NGO センター (JANIC) 年会費
- ②日本国際交流センター 法人会費
- ③日本国際交流センター 三極委員会 賛助会費
- ④国際文化会館 法人会費

【Ⅱ】「国際リーダー・人材育成」を図る事業 (継 2)

【助成事業】

1) 一般団体

①認定・特非) 外国人看護師・介護福祉士教育支援組織

日越連携プログラムによる介護人材の確保と育成

COVID-19 感染が収束せず活動は限定的のものとなった。タイビン医療短期大学看護科 2 年生 (2021 年 4 月現在) 7 名を対象に日本からオンラインでベトナムでは対面またはオンラインで 1 年間日本語教育を実施した。2021 年 12 月、7 名中 1 名が日本語能力試験で N2, 2 名が N3, 4 名が N4 相当以上のレベルに達したと推定されたが、2022 年 4 月入学の留学生募集はなく、2022 年 10 月入学を目指して日本語教育支援を継続することとした。ベトナムを訪問しての活動 (留学希望者の実家訪問など) は実施できなかった。日本国内でも自由移動が制限されたため、東京・埼玉に在留する学生 3 名について受入れ施設 (2 か所) を訪問して対面で情報収集できたが、岐阜 5 名と和歌山 9 名については、施設訪問は許可されず、学生とはオンライン面談 (1 人 30 分) により状況把握に努めた。2022 年 3 月、留学生 2 名 (2019 年度来日) が第 34 回介護福祉士国家試験に大変優秀な成績で合格した。

2) 特別枠

①公財) 日本国際交流センター

第 14 回 JCIE 田中塾

テーマ:『世界情勢と日本の戦略—日本は米中対立で生き残れるか?』

参加者: JCIE 法人会員企業、継続/過去参加企業、メディア、学者、官公庁 (外務省、経産省) から 12 名

◆2021 年 11 月-2022 年 3 月。隔週金曜日に実施。全 8 回講義。

◆83%の出席率。今期途中に起きたウクライナ侵攻により、特にメディア関係者の欠席が目立った

第 14 期は、コロナ後の国際構造を俯瞰すると共に、バイデン政権下での日米関係、先鋭化する米中関係、朝鮮半島情勢、EU・英国・ロシア、そして日本国内と地域毎に各回取り上げ、とりわけロシアのウクライナ侵攻が国際秩序に与える影響をリアルタイムに捉え、今後の国際情勢及び日本が取るべき外交戦略について多面的に議論を行った。

②特非) アジア・コミュニティ・センター21

日韓みらい若者支援事業

1. 学習会「孫基禎の生き方から学ぶ-オビッックとは? 日韓関係の再構築と今後の青年への期待-」(9 月、30 名参加) 講師: 寺島善一氏(明治大学名誉教授)

- 2.対談「スポーツは国境を越えて」（12月、50名参加）
登壇:安英学氏(元Jリーグ)、木村元彦氏(スポーツライター)
- 3.“語り場”「韓国の歴史教科書について知ろう!」（9～10月、計4回、15名参加）
講師:上山由里香氏(韓国現代史研究者)
- 4.“語り場”「あなたの身近にある、日本と朝鮮半島との文化的つながり」（11-12月、計4回、16名参加）講師:①八田靖史氏、②沈壽官氏、③・④深田晃二氏
①「韓食留学1999」著者・八田靖史さんと語る「コリアン・フード」②「伝統を受け継ぎ世界に名だたる「薩摩焼」を未来へ」③・④「朝鮮半島由来の石人像など」
- 5.“語り場”『記事「イダ」を通して韓国の市民活動を知ろう』（12月-22年1月、計4回16名参加）講師:麻生水緒氏(アジアモンス代表)

③公財) 国際文化会館

インド太平洋次世代リーダーによるウェビナーシリーズ

国際文化会館では、ラモン・マグサイサイ賞財団とパートナーシップのもと、アジアを中心とした今日のグローバルな社会課題についてマグサイサイ賞受賞者らと考える全5回のウェビナーシリーズを下記テーマにて開催。これまで世界的には注目されつつも、日本ではあまり知られてこなかった草の根の社会活動家や教育家、ジャーナリストなどの考え方や活動について紹介する機会となった。

シリーズ#1「マイノリティに声をもたらず揺るぎないアクティビズムとは」

シリーズ#2「社会運動を醸成するには：オルタナティブ・メディアの役割」

シリーズ#3「未来は彼らのもの：子どもの主体的でダイナミックな学びを育むには」

シリーズ#4「社会ビジネスとしての農業を広めるには」

シリーズ#5「紛争、災害、コロナ下のメンタルヘルスを考える」

【Ⅲ】「民間公益活動の振興」を図る事業（継3）

【助成事業】

1) 特別枠

①公財) 日本国際交流センター

民主主義の未来研究会：『サニーランズ原則国際会議』

【3月の対面実施を中止し、5月にオンラインで開催】変更申請済

仮テーマ：『インド太平洋地域の民主的ガバナンスとパートナーシップ構築のアクター』

現状準備状況：

- ・次世代民主主義認識調査実施中
- ・会議趣意書、アジェンダ作成中、米国助成元来日中(3/31-4/2)に打ち合わせ予定

国際会議内容（予定）：

当プロジェクトは「アジアの中の日本」を基軸に、地域における民主的ガバナンス実現のための協力とパートナーシップ構築を目的に、様々なステークホルダーと連携し日本の役割を見出してきた。その総括となる国際会議をオンラインで開催する。

会議は二日間を予定。一日目：若者を次世代の担い手として位置づけ、地域における次世代の政治参加の概況とその課題を議論。二日目：アジア地域の民主的ガバナンスや次世代のパートナーシップ強化の具体的方途を議論する

②公財) 公益法人協会

●2021年度民間法制・税制調査会

本調査会は、公益法人等の非営利法人のよりよい制度環境、活動環境の実現を目指す目的で開催されるものである。

テーマ：日本における中小会社の会計の研究、ワーカーズコレクティブや合同会社の制度について、学校法人ガバナンス改革の動向調査、米国の非営利法人制度

参加者：学識経験者7名、専門家3名、実務経験者6名 計16名

開催回数：民間法制・税制調査会8回、訪米調査勉強会7回

開催場所：公益法人協会会議室(リモート会議併用)

成果物：公益法人協会(2022)『民間法制・税制調査会報告書』.291p.

●訪米調査ミッション➡中止

③公財) 国際文化会館

Architalk ウェビナーシリーズ

本事業では「建築×歴史」、「建築×アート」、「建築×コミュニティ」など建築を異なる分野の視点から社会のためにどのように生かすことができるのか考えるためのウェビナーを5回シリーズで開催。今後、建築・デザイン・都市を通してどのような未来を創造できるのか、特に次代を担う若者が考えるための場を提供した。

シリーズ#1「建築家の社会的な役割」隈研吾(建築家)

シリーズ#2「アート、建築、社会」名和晃平(彫刻家)

シリーズ#3「建築からみる東南アジアの近代」

ローレンス・チュア(シラキューズ大学教授)、ペン・セレイパンヤ(建築家)

シリーズ#4「建築・デザインがコミュニティを創る」

サラ・ムイ(建築家)、サヴィニー・ブラナシラピン(建築家)

シリーズ#5「建築・都市デザインにみる伝統とエコロジー」

【寄付事業】

①アジア調査会 「アジア太平洋賞」協賛金

【会費】

①アルカンシエール美術財団 法人賛助会費

②尾崎行雄記念財団 賛助会費

<その他の事業>

【自主事業】

●若手リーダー育成研修事業

MRAの基本的精神を継承し、社会に貢献できるリーダーの育成・支援等を目的とした若手リーダー育成研修事業を2022年度より開始することを目標として準備をし、併せて、この研修事業の基礎を形作るために不可欠なMRAの基本的精神の研究調査を行っている。